

## 2013 年度 鈴鹿国際大学外国人日本語環境実態調査

### A Survey of the Japanese Language Environment for International Students at Suzuka International University 2013

舟橋宏代\*・棧敷まゆみ\*\*

Hiroyo FUNAHASHI, Mayumi SANJIKI

#### 要旨

鈴鹿国際大学に在籍する、留学生と外国籍一般生を含む全学年の外国人学生を対象に、日本語環境実態調査を行った。2013年7月、ゼミ等の授業担当者が、全学年の外国人学生に調査用紙を配付し、外国人学生166名、うち外国籍一般生16名の回答を得た。この調査の結果から、その主要部分である、外国人学生の日本語能力自己評価、大学の授業及び大大学生活に対する意識に関して報告する。留学生と外国籍一般生では、特定の項目に、若干の差異が認められるが、その差異は一般的なものとするはできず、今後、外国人学生の日本語環境とニーズを把握するための試みを継続していく必要がある。

キーワード：外国人学生、留学生、外国籍一般生、日本語環境実態調査

#### 1. はじめに

2002年度に、鈴鹿国際大学留学生日本語環境実態調査を実施してから10余年の歳月が流れた。この間、留学生をめぐる状況は大きく変化し、現在も変わりつつある。そして、留学生自体も多様化し、国籍、年齢、経済的背景などに変化が見られた。日々の生活の中で、直感的に漠然と感じられるこの変化をとらえ、教学に生かしたいというのが、この調査を行う最大の動機である。

また、10年前との大きな違いとして、「外国人の大学生」が、もはや留学生だけではないということがある。

鈴鹿国際大学が存在する三重という地域は、製造業に携わる南米系の日系人およびその子弟が多数居住しており、近年、日本の高校を卒業した外国籍の学生が、留学生入試以外の、従来日本人だけが受けていた試験に合格して多数入学してきている。彼らを、本稿においては「外国籍一般生」と称する。外国籍一般生は当然のことながら留学生とは違い、

---

\*本学教授、日本語教育(Japanese Language Teaching)

\*\*本学講師、日本語教育(Japanese Language Teaching)

日本人学生と同じ扱いを受けていたのであるが、日本の高校を卒業していて、生活言語は習得しているも、学習言語の習得が十分ではない者が少なくない。鈴鹿国際大学では、従来、外国籍一般生は留学生対象の日本語科目が履修登録できず、単位取得のできない「受講」だけが認められていたが、一部の科目を「特殊講義」として履修可とする臨時的措置を経て、2013 年度入学生から、留学生だけではなく、外国籍一般生も、「母語が日本語ではない」と認められれば、留学生対象の日本語科目を履修できるように制度を改定した。

留学生を中心としながら、外国籍一般生をも対象とした授業実践を行う中で、外国籍一般生はその背景や学習条件が留学生と違うことが、日を追って重く感じられた。「外国語学習」として日本語学習を積み重ねてきた留学生が、日本語学習に対して自分なりの学習観を持ち、授業の運営方法や自己の学習を把握して、そこに問題があるときには教員と交渉しようとするものに対し、外国籍一般生の場合、日本語を外国語として学んだ経験がないか非常に乏しいように見受けられ、学習上問題があるのかないか、あるとしてもどこをどうしたらいいのか、学習者自身も教員自身も把握が難しい場合がある。何らかの手段により、こうした外国籍一般生も含めた外国人学生<sup>1)</sup>の日本語環境とニーズを把握したいと考えた。

本稿は、鈴鹿国際大学に在籍する、留学生及び外国籍一般生を含めた外国人学生を対象に行った、「2013 年度 鈴鹿国際大学外国人日本語環境実態調査」の結果より、外国人学生の日本語能力自己評価、大学の授業及び大学生活に関する意識について報告するものである。

## 2. 調査対象と調査方法

調査用紙は、「2002 年度鈴鹿国際大学留学生日本語環境実態調査」（以下 2002 年度調査とする）の項目を、東北大学(2013)、日本学生支援機構(2012)を参考にして見直した。調査内容が多くなりすぎると、回答者の負担が重くなる。2002 年度調査では、留学生の生活全般にわたる日本語環境実態の把握を目指したが、今回は項目を絞るために、「地域住民との交流状況」「地域住民との関係に対する満足度」などの設問を省き、自分自身の日本語能力に対する評価について問う項目を新たに立てて、日本語に対する意識と大学生活を中心に把握することにした。また、調査用紙は記名とすることにより、得られた回答について個々に考察できるようにした。（稿末付録参照）

2013 年度前期も終わりに近づいた7月初旬、1 年次配当で、留学生の必修科目である「日本語作文Ⅰ」及びプレゼミ、基礎演習、演習Ⅰ、Ⅱの授業担当者に、全学年に所属する外国人学生への調査用紙を配付し、調査を依頼した。7 月 31 日の期限までに、166 名から 168 枚の調査用紙を回収した。<sup>2)</sup>その内訳は、表 1 の通りである。

表1 外国人日本語環境調査回答者の内訳

| 学年  | 回答者数 | 留学生  | 外国籍一般生 |
|-----|------|------|--------|
| 1年生 | 27名  | 20名  | 7名     |
| 2年生 | 29名  | 25名  | 4名     |
| 3年生 | 40名  | 36名  | 4名     |
| 4年生 | 70名  | 69名  | 1名     |
| 合計  | 166名 | 150名 | 16名    |

留学生の在籍者数は、2013年4月1日時点で235名であり、回収率は63.8%である。

一方、外国籍一般生の場合、大学の書類で国籍を問うものが存在しないため、全体で何名いるのかが把握できない。本調査において調査対象者として事前に把握した学生数は18名であり、回収率は88.9%である。担当教員の協力により、名簿上では日本国籍ではないことが判断できなかつた学生の回答も得られている。

### 3. 調査結果

以下に、質問項目それぞれに対する回答を集計した結果を示す。

#### (1) 日本滞在期間

外国人学生の日本滞在期間を表2-1、そのうち外国籍一般生の日本滞在期間を表2-2にまとめた。それぞれの学年での最大人数を太字で表記した。

表2-1 外国人学生の日本滞在期間

|     | 1年未満               | 1年以上<br>2年未満 | 2年以上<br>3年未満        | 3年以上<br>5年未満        | 5年以上<br>年未満  | 8年以上        | 記入なし       | 合計   |
|-----|--------------------|--------------|---------------------|---------------------|--------------|-------------|------------|------|
| 全学年 | 17人<br>(10%)       | 14人<br>(8%)  | 32人<br>(19%)        | <b>64人</b><br>(39%) | 25人<br>(15%) | 13人<br>(8%) | 1人<br>(1%) | 166人 |
| 1年生 | <b>9人</b><br>(33%) | 0人<br>(0%)   | 7人<br>(26%)         | 4人<br>(15%)         | 2人<br>(7%)   | 5人<br>(19%) | -          | 27人  |
| 2年生 | 0人<br>(0%)         | 8人<br>(28%)  | 6人<br>(21%)         | <b>11人</b><br>(38%) | 1人<br>(3%)   | 3人<br>(10%) | -          | 29人  |
| 3年生 | 8人<br>(20%)        | 0人<br>(0%)   | <b>13人</b><br>(32%) | 11人<br>(28%)        | 4人<br>(10%)  | 4人<br>(10%) | -          | 40人  |
| 4年生 | 0人<br>(0%)         | 6人<br>(9%)   | 6人<br>(9%)          | <b>38人</b><br>(54%) | 18人<br>(26%) | 1人<br>(1%)  | 1人<br>(1%) | 70人  |

外国人学生の日本滞在期間は、全学年では「3年以上5年未満」が64人(39%)で最も多い。1・3年生では、現地入試等を経て本学に入学・編入学するために来日した学生を中心に、「1年未満」の滞在が多くなっている。

表 2-2 外国籍一般生の日本滞在期間

|     | 1年未満       | 1年以上<br>2年未満 | 2年以上<br>3年未満 | 3年以上<br>5年未満 | 5年以上<br>8年未満 | 8年以上         | 合計  |
|-----|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| 全学年 | 0人<br>(0%) | 0人<br>(0%)   | 0人<br>(0%)   | 2人<br>(12%)  | 3人<br>(18%)  | 12人<br>(70%) | 17人 |

外国籍一般生のみを取り出して見てみると、「8年以上」の滞在が最も多く、すべての学生が3年以上の滞在となっている。

## (2) 日本語学習歴

外国人学生の日本語学習歴を表 3-1 に、外国籍一般生の日本語学習歴を表 3-2 にまとめた。

表 3-1 外国人学生の日本語学習歴

|     | 1年未満        | 1年以上<br>2年未満 | 2年以上<br>3年未満 | 3年以上<br>5年未満 | 5年以上<br>8年未満 | 8年以上        | 記入なし       | 合計   |
|-----|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|------------|------|
| 全学年 | 8人<br>(5%)  | 33人<br>(20%) | 46人<br>(28%) | 48人<br>(29%) | 15人<br>(9%)  | 10人<br>(6%) | 6人<br>(3%) | 166人 |
| 1年生 | 4人<br>(15%) | 3人<br>(11%)  | 6人<br>(22%)  | 6人<br>(22%)  | 2人<br>(7%)   | 5人<br>(19%) | 1人<br>(4%) | 27人  |
| 2年生 | 0人<br>(0%)  | 10人<br>(34%) | 8人<br>(28%)  | 6人<br>(21%)  | 1人<br>(3%)   | 2人<br>(7%)  | 2人<br>(2%) | 29人  |
| 3年生 | 0人<br>(0%)  | 2人<br>(5%)   | 17人<br>(42%) | 16人<br>(40%) | 2人<br>(5%)   | 3人<br>(8%)  | -          | 40人  |
| 4年生 | 4人<br>(6%)  | 18人<br>(26%) | 15人<br>(21%) | 20人<br>(29%) | 10人<br>(14%) | 0人<br>(0%)  | 3人<br>(4%) | 70人  |

表 3-2 外国籍一般生の日本語学習歴

|     | 1年未満       | 1年以上<br>2年未満 | 2年以上<br>3年未満 | 3年以上<br>5年未満 | 5年以上<br>8年未満 | 8年以上         | 合計  |
|-----|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| 全学年 | 1人<br>(6%) | 1人<br>(6%)   | 1人<br>(6%)   | 2人<br>(11%)  | 2人<br>(11%)  | 10人<br>(59%) | 17人 |

外国人学生の日本語学習歴は、全学年では「3年以上5年未満」が48人(29%)で最も多い。学年が上がるにつれ、日本滞在が長くなるにつれ、日本語学習歴は長くなりそうなものだが、4年生でも「3年以上5年未満」が20人(29%)と最も多い。この結果は、学生の日本語学習歴の捉え方に関係しているようだ。日本語学習歴を「日本語の授業を受けた期間」として捉えると、2年生以上を受講対象者とした日本語科目を履修し終えた学生及び履修しなかった学生の日本語学習歴はそれ以上伸びないことになる。

一方、外国籍一般生を見てみると、「8年以上」の日本語学習歴が10人(59%)で最も多く、こちらは日本滞在期間に比例して、日本語学習歴が長くなっている様子が見える。この日本語学習歴には、日本における初等及び中等教育機関での学校教育期間が含まれるものと推測される。

## (3) 日本語能力の自己評価・満足度

## 1) 日本語能力の技能別による自己評価

外国人学生の自らの日本語能力に対する自己評価を表4～7にまとめた。

表4 外国人学生の日本語を話す力の自己評価（全学年）

|                             | できない       | あまり<br>できない  | 難しいが<br>何とかできる              | できる                        |
|-----------------------------|------------|--------------|-----------------------------|----------------------------|
| 1)自分の意見や考えを論理的に述べる          | 4人<br>(2%) | 23人<br>(14%) | <b>100人</b><br><b>(60%)</b> | 40人<br>(24%)               |
| 2)敬語を使いながら目上の人と雑談する         | 9人<br>(6%) | 60人<br>(36%) | <b>78人</b><br><b>(47%)</b>  | 18人<br>(11%)               |
| 3)友人や知人と世間話や雑談をする           | 2人<br>(1%) | 14人<br>(8%)  | <b>76人</b><br><b>(46%)</b>  | 74人<br>(45%)               |
| 4)わからないことについて聞いたり、問い合わせたりする | 1人<br>(1%) | 16人<br>(10%) | 68人<br>(41%)                | <b>80人</b><br><b>(48%)</b> |

表5 外国人学生の日本語を書く力の自己評価（全学年）

|                            | できない       | あまり<br>できない  | 難しいが<br>何とかできる             | できる                        | 記入なし       |
|----------------------------|------------|--------------|----------------------------|----------------------------|------------|
| 5)レポートや論文を書く               | 6人<br>(4%) | 34人<br>(20%) | <b>88人</b><br><b>(52%)</b> | 40人<br>(24%)               | -          |
| 6)友人に日常的な用件を伝えるメールを書く      | 1人<br>(1%) | 15人<br>(9%)  | 69人<br>(41%)               | <b>82人</b><br><b>(49%)</b> | -          |
| 7)体験したことやその感想について簡単にまとめて書く | 3人<br>(2%) | 23人<br>(13%) | <b>81人</b><br><b>(48%)</b> | 62人<br>(36%)               | 1人<br>(1%) |
| 8)講義のノートをとる                | 7人<br>(4%) | 29人<br>(17%) | <b>79人</b><br><b>(48%)</b> | 51人<br>(31%)               | -          |

表6 外国人学生の日本語を聞く力の自己評価（全学年）

|                             | できない       | あまり<br>できない  | 難しいが<br>何とかできる             | できる                        |
|-----------------------------|------------|--------------|----------------------------|----------------------------|
| 9)大学の講義等を聞いて内容を理解する         | 3人<br>(2%) | 25人<br>(15%) | <b>92人</b><br><b>(55%)</b> | 48人<br>(28%)               |
| 10)政治や経済等のニュースを聞いて要点を理解する   | 6人<br>(4%) | 54人<br>(32%) | <b>84人</b><br><b>(50%)</b> | 23人<br>(14%)               |
| 11)身近で日常的な話題についての会話を聞いて理解する | 0人<br>(0%) | 20人<br>(12%) | <b>74人</b><br><b>(44%)</b> | <b>73人</b><br><b>(44%)</b> |
| 12)映画やドラマ等を見て、ストーリーを理解する    | 0人<br>(0%) | 16人<br>(10%) | 67人<br>(40%)               | <b>83人</b><br><b>(50%)</b> |

表7 外国人学生の辞書を使用しないで日本語を読む力の自己評価（全学年）

|                                     | できない        | あまり<br>できない  | 難しいが<br>何とかできる | できる          |
|-------------------------------------|-------------|--------------|----------------|--------------|
| 13)専門書や論説文等を読み、<br>理解する             | 11人<br>(7%) | 70人<br>(42%) | 70人<br>(42%)   | 16人<br>(9%)  |
| 14)興味のある話題についての新聞<br>記事や雑誌等を読み、理解する | 6人<br>(4%)  | 44人<br>(26%) | 80人<br>(48%)   | 37人<br>(22%) |
| 15)小説や漫画等を読み、理解<br>する               | 2人<br>(1%)  | 51人<br>(31%) | 75人<br>(45%)   | 39人<br>(23%) |
| 16)役所や大学の書類、説明書<br>等を読み、理解する        | 4人<br>(2%)  | 38人<br>(23%) | 89人<br>(53%)   | 36人<br>(22%) |

外国人学生の自らの日本語能力に対する自己評価は、概ね高いといえる。外国人学生は皆、滞日期間の長短、日本語を使用する機会の多少の差はあれ、日本に住み、日本の大学で学び、日々生活をしている。そうした事情からか、いずれの技能においても「できない」と答えた学生は数パーセントにとどまっており、多くの質問項目（16項目中9項目）において「難しいが何とかできる」と「できる」を合わせた数が80%以上の高水準となっている。この中で特に、「書く力」については、もっと評価が低いものと予測していた。

こうした中で、「話す力」の2)「敬語を使いながら目上の人と雑談する」ことについては、「できない」と「あまりできない」をあわせた数が42%にのぼっており、難しさを感じているようだ。また、「聞く力」においては、10)「政治や経済等のニュースを聞いて要点を理解する」が「できない」「あまりできない」とするものが36%をしめる。「聞く力」の自己評価に関する11)、12)において、「できない」と答えた学生は一人もおらず、身近で日常的な話題についての会話や、映画・ドラマなどのストーリーを理解することについては、不安を感じていないようだ。

全学年の学生が入学初年次に受験した日本語のプレースメントテストの点数と、質問項目の自己評価の高さの相関を求めたところ、ほとんどの項目で相関が見られなかったが、「聞く力」の12)「映画やドラマ等を見て、ストーリーを理解する」のみ相関係数0.25と、日本語のプレースメントテストの点数との弱い相関が見られた。

注目すべきは「読む力」の自己評価である。「辞書を使用しないで」と条件をつけたためか、他の技能の質問項目より全体的に「あまりできない」の割合が高くなっている。やはりいかなる種類の読み物であっても、辞書を使わずに読み、その内容を理解するのは難しいようである。

外国籍一般生のみを見てみると、外国籍一般生の自らの日本語能力に対する自己評価は、全体的に非常に高いといえる。16の質問項目中11の質問項目において、「できる」が最も多い回答となっている。また、質問項目5)、13)、14)を除けば、「できない」と答えた学生は一人もいなかったが、2)「敬語を使いながら目上の人と雑談する」、5)「レポート・

論文を書く」、8)「講義のノートをとる」、13)「専門書・論説文等を読み、理解する」、14)「興味のある話題についての新聞記事や雑誌等を読み、理解する」に「あまりできない」との回答が散見される。

## 2) 現在の日本語能力に対する満足度

外国人学生の現在の日本語能力に対する満足度を表 8-1 に、外国籍一般生の現在の日本語能力に対する満足度を表 8-2 に示す。

表 8-1 外国人学生の日本語能力に対する満足度

|     | 49%以下              | 50~59%              | 60~69%       | 70~79%       | 80~89%             | 90~99%      | 100%       | 記入なし        | 合計   |
|-----|--------------------|---------------------|--------------|--------------|--------------------|-------------|------------|-------------|------|
| 全学年 | 27人<br>(16%)       | <b>44人</b><br>(26%) | 24人<br>(14%) | 29人<br>(17%) | 23人<br>(14%)       | 8人<br>(5%)  | 0人<br>(0%) | 13人<br>(8%) | 168人 |
| 1年生 | <b>8人</b><br>(29%) | 4人<br>(14%)         | 4人<br>(14%)  | 4人<br>(14%)  | 4人<br>(14%)        | 4人<br>(14%) | 0人<br>(0%) | -           | 28人  |
| 2年生 | 2人<br>(7%)         | <b>8人</b><br>(28%)  | 5人<br>(17%)  | 6人<br>(21%)  | 1人<br>(3%)         | 2人<br>(7%)  | 0人<br>(0%) | 5人<br>(17%) | 29人  |
| 3年生 | <b>9人</b><br>(22%) | 8人<br>(20%)         | 3人<br>(7%)   | 6人<br>(15%)  | <b>9人</b><br>(22%) | 0人<br>(0%)  | 0人<br>(0%) | 5人<br>(13%) | 40人  |
| 4年生 | 8人<br>(11%)        | <b>24人</b><br>(34%) | 12人<br>(17%) | 13人<br>(18%) | 9人<br>(13%)        | 2人<br>(3%)  | 0人<br>(0%) | 3人<br>(4%)  | 71人  |

表 8-2 外国籍一般生の日本語能力に対する満足度

|     | 49%以下       | 50~59%      | 60~69%     | 70~79%      | 80~89%             | 90~99%      | 100%       | 合計  |
|-----|-------------|-------------|------------|-------------|--------------------|-------------|------------|-----|
| 全学年 | 2人<br>(12%) | 2人<br>(12%) | 1人<br>(6%) | 2人<br>(12%) | <b>6人</b><br>(35%) | 4人<br>(23%) | 0人<br>(0%) | 17人 |

外国人学生の現在の日本語能力に対する満足度は、全学年では「50~59%」が44人(26%)で最も多くなっている。3年生は「80~89%」が9人(22%)だが、「49%以下」も同様に「9人(22%)」であり、学年による大きな差異やばらつきは見られない。

外国籍一般生のみを見てみると、「80~89%」が6人(35%)、次いで「90~99%」が4人(23%)であり、留学生に比べ、現在の日本語能力に対する満足度が高い。この結果は、前項 1) で見た「日本語能力の技能別による自己評価」の結果とも矛盾しない。自らの日本語能力を高く評価すればこそ、その満足度は自ずと高くなるのだろう。また、別の側面から考えると、外国籍一般生は日本滞在期間が長く、日常生活レベルの日本語には不自由さをほぼ感じていない。こうしたことから、自らの日本語能力に対する満足度が高くなるのではないかと考えられる。

#### (4) 日本語の授業について

##### 1) 日本語の予習・復習にかける時間（一日平均）

日本語の予習・復習にかける時間を表9に示す。

表9 外国人学生の日本語学習の予習・復習にかける時間

|     | 1時間未満        | 1時間以上<br>2時間未満 | 2時間以上<br>3時間未満 | 3時間以上       | 記入なし        | 合計   |
|-----|--------------|----------------|----------------|-------------|-------------|------|
| 全学年 | 51人<br>(30%) | 70人<br>(42%)   | 21人<br>(12%)   | 13人<br>(8%) | 13人<br>(8%) | 168人 |
| 1年生 | 12人<br>(43%) | 12人<br>(43%)   | 0人<br>(0%)     | 1人<br>(3%)  | 3人<br>(11%) | 28人  |
| 2年生 | 8人<br>(28%)  | 13人<br>(45%)   | 4人<br>(14%)    | 3人<br>(10%) | 1人<br>(3%)  | 29人  |
| 3年生 | 14人<br>(35%) | 14人<br>(35%)   | 6人<br>(15%)    | 5人<br>(12%) | 1人<br>(3%)  | 40人  |
| 4年生 | 17人<br>(24%) | 31人<br>(44%)   | 11人<br>(15%)   | 4人<br>(6%)  | 8人<br>(11%) | 71人  |

日本語の予習・復習にかける時間は、全学年では約7割の学生が「2時間未満」であり、その傾向に学年による違いは見られない。

外国籍一般生も同様に、約8割の学生が「2時間未満」であった。

##### 2) 日本語学習に関連するもので、持っているもの、使用しているもの

外国人学生が持っているものを図1-1に、外国人学生が日本語学習に使用しているものを図1-2に示す。

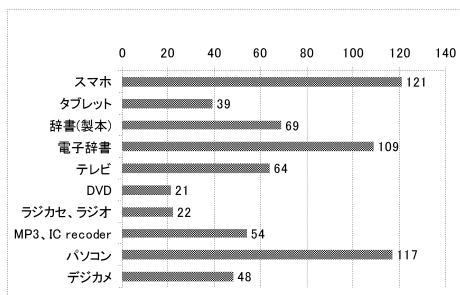


図1-1 外国人学生が持っているもの

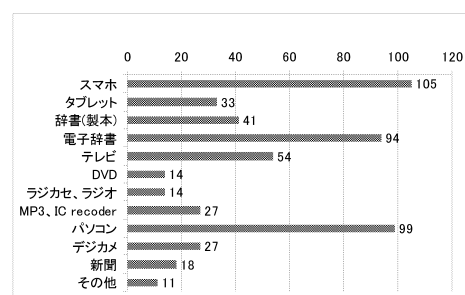


図1-2 外国人学生が学習に使用しているもの

2002年度調査において、来日して3ヵ月ほどしか経たない学生でも多様な器材を所有し、日本語の学習に使用していることがすでに明らかにされている。本調査でも同様に、学生はIT機器をはじめ、非常に多様な機器等を所有し、日本語の学習や研究活動等に使用していることがわかった。学生一人当たり、平均で3台以上の機器を保有し、平均で3



台以上の機器を日本語学習に利用している。

本調査において選択肢として挙げたものには、2002 年度調査では取り上げていなかった、あるいは、当時はなかった電子機器や IT 機器が多数含まれている。

中でも、スマートフォン（iphone を含む）、パソコン、電子辞書の保有率及び学習における使用率は著しい。スマートフォンの保有率は 72%、使用率は 62.5%であり、パソコンの保有率は 69.6%、使用率は 58.9%であった。スマートフォンのアプリケーションソフトには、日本人にはなじみが薄く、電子辞書も発売されていないマイナー言語（ベトナム語—日本語、ネパール語—英語など）の辞書ソフトがあり、それらの言語を母語とする外国人学生にとって、身近で有益な学習ツールとなっているようである。

### 3) 日本語の授業に対する理解度

外国人学生の日本語の授業に対する理解度を表 10-1 に、外国籍一般生の日本語の授業に対する理解度を表 10-2 に示す。

表 10-1 外国人学生の日本語の授業に対する理解度

|      | 49%以下        | 50~59%        | 60~69%       | 70~79%              | 80~89%                    | 90~99%        | 100%        | 記入なし         | 合計    |
|------|--------------|---------------|--------------|---------------------|---------------------------|---------------|-------------|--------------|-------|
| 全学年  | 8 人<br>(5%)  | 28 人<br>(17%) | 11 人<br>(6%) | 34 人<br>(20%)       | <b>45 人</b><br>(27%)      | 22 人<br>(13%) | 9 人<br>(5%) | 11 人<br>(7%) | 168 人 |
| 1 年生 | 0 人<br>(0%)  | 5 人<br>(18%)  | 0 人<br>(0%)  | 4 人<br>(14%)        | <b>9 人</b><br>(32%)       | 7 人<br>(25%)  | 1 人<br>(4%) | 2 人<br>(7%)  | 28 人  |
| 2 年生 | 3 人<br>(10%) | 4 人<br>(14%)  | 2 人<br>(7%)  | <b>7 人</b><br>(24%) | <b>7 人</b><br>(24%)       | 3 人<br>(10%)  | 2 人<br>(7%) | 1 人<br>(4%)  | 29 人  |
| 3 年生 | 1 人<br>2%    | 7 人<br>17%    | 4 人<br>10%   | 9 人<br>22%          | <b>11 人</b><br><b>28%</b> | 6 人<br>15%    | 1 人<br>3%   | 1 人<br>3%    | 40 人  |
| 4 年生 | 4 人<br>(6%)  | 12 人<br>(17%) | 5 人<br>(7%)  | 14 人<br>(20%)       | <b>18 人</b><br>(25%)      | 6 人<br>(8%)   | 5 人<br>(7%) | 7 人<br>(10%) | 71 人  |

表 10-2 外国籍一般生の日本語の授業に対する理解度

|     | 49%以下       | 50~59%       | 60~69%      | 70~79%       | 80~89%      | 90~99%              | 100%         | 合計   |
|-----|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|---------------------|--------------|------|
| 全学年 | 0 人<br>(0%) | 2 人<br>(14%) | 0 人<br>(0%) | 2 人<br>(14%) | 1 人<br>(7%) | <b>5 人</b><br>(36%) | 4 人<br>(29%) | 14 人 |

外国人学生の日本語の授業に対する理解度は、いずれの学年においても「80~89%」の回答が最も多く、次いで多い回答も「70~79%」や「90~99%」であり、全体として高い理解度を示している。この高水準の理解度は、日本語授業の特性によるものだと考えられる。つまり、日本語科目は専門科目のような理論科目とは異なり、語学の授業であるため、授業内容や教室活動が日本語の学習に特化されている。これによって学生が学習に

取り組みやすくなり、学習内容に集中できるのだと思われる。

外国籍一般生のみを取り出してみると、日本語の授業を受講したことのある 14 人の学生のうち、10 人の学生が 80%以上の理解度と答えており、100%の理解度とした学生も 4 人 (29%) いた。

#### 4) 日本語の授業に対する満足度

外国人学生の日本語の授業に対する満足度を表 11-1 に、外国籍一般生の日本語の授業に対する満足度を表 11-2 に示す。

表 11-1 外国人学生の日本語の授業に対する満足度

|      | 49%以下       | 50~59%        | 60~69%       | 70~79%                      | 80~89%                      | 90~99%                     | 100%          | 記入なし         | 合計    |
|------|-------------|---------------|--------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|---------------|--------------|-------|
| 全学年  | 6 人<br>(4%) | 21 人<br>(12%) | 14 人<br>(8%) | 31 人<br>(18%)               | <b>37 人</b><br><b>(22%)</b> | 33 人<br>(20%)              | 16 人<br>(10%) | 10 人<br>(6%) | 168 人 |
| 1 年生 | 1 人<br>(3%) | 2 人<br>(7%)   | 1 人<br>(4%)  | 1 人<br>(4%)                 | 7 人<br>(25%)                | <b>8 人</b><br><b>(29%)</b> | 6 人<br>(21%)  | 2 人<br>(7%)  | 28 人  |
| 2 年生 | 1 人<br>(3%) | 4 人<br>(14%)  | 3 人<br>(10%) | 4 人<br>(14%)                | <b>6 人</b><br><b>(21%)</b>  | <b>6 人</b><br><b>(21%)</b> | 4 人<br>(14%)  | 1 人<br>(3%)  | 29 人  |
| 3 年生 | 1 人<br>(2%) | 4 人<br>(10%)  | 3 人<br>(7%)  | 11 人<br>(28%)               | <b>12 人</b><br><b>(30%)</b> | 8 人<br>(20%)               | 0 人<br>(0%)   | 1 人<br>(3%)  | 40 人  |
| 4 年生 | 3 人<br>(4%) | 11 人<br>(16%) | 7 人<br>(10%) | <b>15 人</b><br><b>(21%)</b> | 12 人<br>(17%)               | 11 人<br>(16%)              | 6 人<br>(8%)   | 6 人<br>(8%)  | 71 人  |

表 11-2 外国籍一般生の日本語の授業に対する満足度

|     | 49%以下       | 50~59%      | 60~69%      | 70~79%       | 80~89%       | 90~99%                     | 100%         | 合計   |
|-----|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|----------------------------|--------------|------|
| 全学年 | 1 人<br>(7%) | 0 人<br>(0%) | 1 人<br>(7%) | 2 人<br>(14%) | 2 人<br>(14%) | <b>5 人</b><br><b>(36%)</b> | 3 人<br>(21%) | 14 人 |

外国人学生の日本語の授業に対する満足度は、全学年では「80~89%」が 37 人 (22%) で最も多く、学年別に見ても最も多い回答は 80%代前後である。このことから、日本語の授業に対する満足度は概ね高いといえそうである。

前項 3) において、日本語の授業に対する理解度が高水準であることを見た。日本語の授業がよく分かれば、自ずと授業に対する満足度も高くなるということだろう。

この相関関係は、外国籍一般生においても同様に見られた。だが、日本語授業に対する満足度は、14 人中 8 人 (57%) が 90%以上と回答しており、留学生に比べ、より高くなっている。

### 5) 日本語の授業で学びたいこと・学びたかったのに学べなかったこと

この項目の最後に、「日本語の授業で学びたいこと」、「学びたかったのに学べなかったこと」について尋ねたところ、102件の記述があった。記述の内容を分析するにあたっては、例えば、「日本の文化、日本の歴史が学びたいです。」という記述の場合、「日本事情」の「文化」に関する記述が1件、「歴史」に関する記述が1件として数えた。

全体のうち、24件が「ない・特にない」であり、78件が「学びたいこと、学びたかったのに学べなかったこと」についての記述である。表12は、その78件の記述を分類してまとめたものである。

表12 外国人学生の日本語の授業で学びたい・学びたかったこと

|                 |           |                    |           |
|-----------------|-----------|--------------------|-----------|
| <b>日本語学習の継続</b> | <b>22</b> | <b>日本事情</b>        | <b>18</b> |
| 会話              | (10)      | 歴史                 | (4)       |
| 文法              | (6)       | 時事                 | (3)       |
| 語彙              | (3)       | 文化・風俗等             | (3)       |
| 漢字              | (2)       | 文学・小説              | (2)       |
| その他             | (1)       | 他国との文化比較           | (2)       |
| -----           |           | ドラマ・歌              | (2)       |
| <b>言葉の使い分け</b>  | <b>18</b> | 日本人の考え方            | (1)       |
| 敬語              | (10)      | 流行語                | (1)       |
| ビジネス            | (4)       | <b>レポート、論文の書き方</b> | <b>11</b> |
| 若者言葉            | (1)       | <b>日本語能力試験の対策</b>  | <b>7</b>  |
| 縮約語             | (1)       | <b>教室外活動</b>       | <b>2</b>  |
| 方言・関西弁          | (1)       |                    |           |
| 喧嘩のこぼれ          | (1)       | 合計                 | 78        |
| ない、特にない         | 24        |                    |           |

\* 数字は記述件数。太字は合計件数、( )内はその内訳

22件と最も多かった「日本語学習の継続」には、「会話」「文法」など、単語レベルの記述が多く見られる。文での記述も「もっと深く会話のことを勉強したいんです。」などであり、どのようなことが学びたいのか、具体的に自分の希望を把握した記述は皆無に等しかった。おそらく、この種の記述の多くは、「学びたい」「学びたかったのに学べなかった」というより、「今後も継続して学習したい」ということを意図したものであり、ただ漠然と今後も勉強が必要だと考えているのではないかと推測される。その意味では、「レポート・論文の書き方(11件)」、「日本語能力試験の受験対策(7件)」の記述の中にも「授業を取り、勉強したが、今後も学んでいきたい」という意図の記述が含まれると思われる。「レポート・論文の書き方」及び「日本語能力試験の受験対策」については、これらの内容を扱う日本語科目が現在開講されている。

言葉の使い分けに関するもののうち、最も多かったのが「敬語」で、学生が敬語を使って話すことに難しさを感じ、四苦八苦している様子がうかがえる。次いで多い「ビジネス」日本語は、3年生で1件、4年生で3件の記述が見られた。卒業を前に日本国内での就職を視野に入れ、あらためて学ぶ必要を感じたのかもしれない。また、「喧嘩する時使う日本語もっと勉強したい。いつも日本人と喧嘩する時負けた。負けたくない」というユニークな記述もあった。

日本事情に関するもののうち、最も多かったのが「歴史」であるが、単に「日本の歴史」と記述しているだけで、日本の歴史の何を学びたいのか、その内容は知ることができなかった。これについては、「日本の文化」も同様である。「日本の文化を学びたい」という学生は珍しくないが、その文化とは何を指すのか、何を授業で取り上げれば学生が「日本の文化を学んだ」と実感できるのか、その内容は非常に捉えにくい。学生自身もよく分からないままに「日本の文化」「日本の歴史」と言っており、学びたいことの内容はとても漠然としているのではないと思われる。その他のカテゴリーについても、小説、歌、などと記述されているだけで、具体的な作品名等が書かれていることはなかった。

## (5) 大学生活について

この項目では、日本語以外の大学の授業について、及び、大学の教職員との関係について尋ねた。

### 1) 大学の授業理解度

日本語以外で一番わかりやすい授業を想定した場合の理解度を図 2-1 に、一番わかりにくい授業を想定した場合の理解度を図 2-2 に示す。

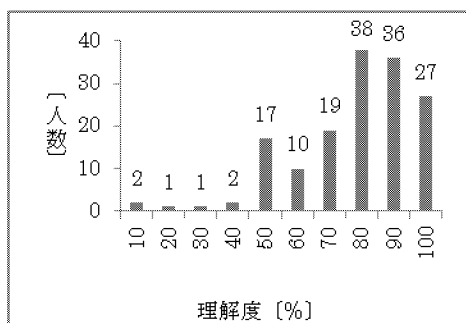


図 2-1 分かりやすい授業の理解度 (全学年)

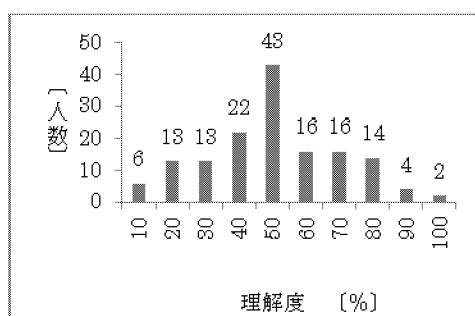


図 2-2 分かりにくい授業の理解度 (全学年)

分かりやすい授業の理解度は、1年生の場合、50%以下の学生が存在しないという特徴があるが、各学年とも、概ねこのような分布を示す。また、わかりにくい授業の理解度は、

学年があがるにつれ若干高くなる傾向はあるものの、学年が上がっても、分かりにくい授業は存在し、類似した分布を示している。

また、日本語の授業理解度と、日本語以外の授業理解度の相関係数を求めると 0.56 となり、日本語の授業の理解度が高い場合、日本語以外の授業理解度も高いと認識していることがわかる。

## 2) 大学の授業が分かりやすい理由、わかりにくい理由

次に、学生たちが考える分かりやすい授業、わかりにくい授業の理由を見てみよう。

表 13-1 は、授業が分かりやすい理由、表 13-2 は、授業が分かりにくい理由である。

表 13-1 授業が分かりやすい理由

| 記述内容          | 件数 |
|---------------|----|
| 教員の話し方、伝え方がよい | 32 |
| 自分に知識・興味があるから | 32 |
| 活動方法がよい       | 11 |
| 視覚教材・資料の活用    | 10 |
| 授業の内容がよい      | 7  |
| 日本人学生の支援があるから | 2  |
| 何となく          | 1  |
| 合計            | 95 |

表 13-2 授業が分かりにくい理由

| 記述内容             | 件数  |
|------------------|-----|
| 授業の内容に問題がある      | 43  |
| 教員の話し方・伝え方に問題がある | 42  |
| 自分に知識・興味がない      | 12  |
| 視覚教材・資料の使用に問題がある | 3   |
| 留学生に配慮がない        | 2   |
| 合計               | 102 |

表 13-1、13-2 では、「授業が分かりやすい理由」「授業が分かりにくい理由」についての記述件数を示している。例えば、「興味を持って、先生もやさしくて、教えてもらいましたからわかりやすい」という記述があれば、「教員の話し方、伝え方がよい」の記述が 1 件、「自分に知識・興味があるから」の記述が 1 件と数える。

授業が分かりやすい理由でもっとも多いものの一つ、「教員の話し方、伝え方がよい」というものには、「理解がしやすいことばを使っている」「先生が話す日本語は簡単だと思います」「先生がゆっくり話しますから」「外国人の先生だから方言がない」など、使用する表現自体に関するもの、「ストーリーや例えがわかりやすい」という説明の方法に関するもの、「先生が優しく、楽天的な性格で聞きたいと思います」という、教員の人柄に関するものがあつた。

また、「活動方法がよい」というのは、「スポーツ。体だけを使うからです」「コンピューター操作をしながらなのでわかりやすい」というものもあつたが、「自分の意見などを自

由に言えるから」「DVDを見て感想を書くから」というものもあった。この記述は、「視覚教材・資料の活用」をも指摘しており、こちらのカテゴリーでもカウントされている。「視覚教材・資料の活用」には、板書の提示、プリントの配付、スクリーンの使用、ビデオ・DVDの視聴などにより、授業がわかりやすくなっているとされている。

「授業が分かりやすい理由」に「日本人学生の支援があるから」と答えた2件の記述は、1年生のものである。「ゼミの授業は人数が少ないので、分からないことがあったら日本人の友だちから教えてもらえるからです」「やさしい日本人の友だちからゆっくり教えてもらった」というものである。

一方、「授業が分かりにくい理由」として最多の理由は、「内容に問題がある」というものである。「内容が抽象的」「専門的で難しい」「論理的なものが多すぎて理解できない」ということである。特に苦しんでいるのは専門用語で、「内容に問題がある」とした43件の記述中15件がこれに該当し、「専門用語が多すぎて、辞書で調べても出てこない」というのが代表的な意見である。また、「内容本来の意味がわからない。先生のおっしゃることはわかるが理解できない。日本語能力を超えた問題だと思います」という指摘もされている。

次に多いのは、「教員の話し方、伝え方に問題がある」というもので、話すスピードが速い、発音がはっきりしない、声が小さい、方言を使う、日本語のレベルが高すぎる、という、話し方や使用する表現自体に関する問題点の指摘が大多数であるが、「ずっと話すから」「授業と関係ないことを言ったりするから。何を教えたいか分からない」という指摘もある。

そして、「視覚教材、資料に問題がある」とするのは、「板書の漢字が汚い」、「何も書かないからわかりにくい」という指摘である。

「留学生に配慮がない」という指摘が2件あった。これは、「授業が分からない理由」のうち、「自分に知識・興味がないから」を除くすべての理由を総括するものかもしれない。

また、外国籍一般生の場合、「授業が分かりやすい理由」「分かりにくい理由」とともに、「教員の話し方、伝え方」によるものとする傾向が見られた。

### 3) 大学の授業の理解度と満足度

外国人学生の、大学の授業の理解度と満足度を、表14にまとめた。

学年別に、理解度と満足度の推移を見てみよう。理解度は学年が上になるにつれて上がるが、4年生になると下がっている。また、満足度は、2年生まではほぼ同じであるが、2

表 14 大学の授業の理解度

| 学年等           | 理解度平均値        | 満足度平均値        |
|---------------|---------------|---------------|
| 1年生 (27名中7名)  | 63.0% (76.0%) | 68.8% (76.0%) |
| 2年生 (29名中4名)  | 67.3% (81.3%) | 68.9% (86.3%) |
| 3年生 (40名中4名)  | 67.5% (78.0%) | 67.4% (62.5%) |
| 4年生 (70名中1名)  | 64.8% (60.0%) | 62.4% (60.0%) |
| 全学年(166名中16名) | 65.6% (78.2%) | 65.9% (75.3%) |

\* ( )内は、外国籍一般生の人数及び理解度・満足度の平均値

年生より3年生、3年生より4年生のほうが、満足度が若干低くなっている。

また、外国籍一般生について理解度と満足度を見てみると、1、2年生、特に2年生は留学生を含む学年全体に比べて、理解度・満足度の平均値が高い。3年生は理解度は10%も高いが、満足度の平均値は全体より低くなっている。

#### 4) 大学の授業に対する意見

日本語以外の大学の授業については、53件の記述が得られた。表15は、大学の授業についての学生の記述をカテゴリ別に分類し、集計したものである。

表 15 大学の授業に対する意見

| 記述内容            | 件数 |
|-----------------|----|
| 意見なし            | 33 |
| 授業運営について        | 7  |
| カリキュラム・教学内容について | 5  |
| 外国人としての配慮を受けたい  | 5  |
| 授業規律について        | 3  |
| 合計              | 53 |

全く何の記述もない用紙は115枚あったが、「意見なし」というカテゴリは、「ないです」「特にありません」などの記述があったもののことである。こう記述した人の学年、理解度、満足度ともまちまちで特定の傾向は見られない。

次に多いのが、「授業運営について」の意見である。「休講が多すぎないようにしてほしい」「パソコンやテレビなど視覚教材を使ってほしい」「学生とのコミュニケーションを大事にほしい」「分かりやすい資料と説明がほしい」「板書はもっときれいに論理的に書

いてほしい」などの意見が2年生以上に見られた。

「カリキュラム・教学内容について」は、「日本語の授業の開講時間がキャリア科目などと重なっており履修できなかった。授業選択の余地がほしい」「もっと面白い／興味を持てる授業内容がほしい」というものであり、漢字にひらがなを書いたり、難しい単語は詳細な説明をしたりという、「外国人としての配慮を受けたい」とする意見と同数であった。

また、「授業規律について」は、「授業で学生が出入りする回数が多い」「授業中、携帯をさわるのをやめてほしい。集中できない」「すべての授業は、勉強しようとする学生の権利をもっと守っていただけたらと思います」というものである。「授業規律について」「カリキュラム・教学内容について」の意見を記述したのはすべて4年生であった。

外国籍一般生は、「意見なし」「大丈夫です」と書いた3名以外は、何も記入していない。

## 5) 大学の教職員との関係について

大学の教職員との関係に、どのくらい満足しているか聞いた結果を表16にまとめた。

表16 大学教職員との関係満足度

| 学年等           | 教員との関係満足度    | 職員との関係満足度    |
|---------------|--------------|--------------|
| 1年生(27名中7名)   | 74.8%(72.5%) | 73.7%(72.55) |
| 2年生(29名中4名)   | 74.8%(91.3%) | 64.0%(93.8%) |
| 3年生(40名中4名)   | 76.9%(86.7%) | 69.7%(65.0%) |
| 4年生(70名中1名)   | 71.0%(70.0%) | 69.8%(60.0%) |
| 全学年(166名中16名) | 73.7%(78.4%) | 70.0%(75.9%) |

\* ( )内は、外国籍一般生の人数及び満足度の平均値

1年生については、教員との関係、職員との関係満足度にほとんど差はないが、2年生以上は若干、教員との満足度が高くなっている。また、外国籍一般生の教職員との関係満足度について、1年生は全体より少し低めであるのに対し、2年生は全体より高く、教員よりも職員との関係に満足していると回答している。

教職員との関係についての意見は、教員との関係について47件、職員との関係については41件の記述があった。記述をカテゴリーにより分類して集計した結果を表17に示す。

教員との関係について、何も記入していないものが大多数であったが、「ありません」「特にないです」と、意見がない旨表明した記述が30件あった。肯定的な記述としては、



表 17 大学教職員との関係についての意見

| カテゴリー  | 教員との関係 (件数) | 職員との関係 (件数) |
|--------|-------------|-------------|
| 「意見なし」 | 30 (1)      | 25 (2)      |
| 肯定的な記述 | 9 (1)       | 7           |
| 否定的な記述 | 8 (1)       | 7 (1)       |
| その他    | 0           | 2           |
| 合計     | 47 (3)      | 41 (3)      |

\* ( )内は、外国籍一般生の記述件数

「先生はやさしいです」「友だちみたいで満足しました」というものであった。また、否定的な記述としては、「学生がいないところで悪口を言わないでほしい」「留学生が嫌いで態度が悪く、単位を出さない教員がいる」「差別をする教員がいる」「コミュニケーションの機会を作ってほしい」などがある。

一方、職員との関係についての記述件数は、全体的に若干少なめである。肯定的な記述は、「やさしいです」「親切です」「わからないことを具体的に教えていただいた」というものである。また、否定的な記述は、「ある人は態度が悪いです」「話を全く聞いてくれない人がある」「学生たちは悩みがあるから相談することを理解してほしい」というものである。この項目で「その他」に入れたのは、「考え中です」「責任感」という、カテゴリー分けが困難な記述である。

外国籍一般生の場合、教員との関係について記述した学生は3名のみである。留学生の回答は31.1%が記述しているのに比べ、外国籍一般生の記述率は17.6%である。

## 6) 大学生生活の満足度

全学年から回答のあった大学生生活の満足度を集計した結果を、表 18 に示す。

表 18 大学生生活の満足度

| 学年等           | 満足度平均値        |
|---------------|---------------|
| 1年生 (27名中7名)  | 71.3% (75.8%) |
| 2年生 (29名中4名)  | 65.3% (91.3%) |
| 3年生 (40名中4名)  | 70.9% (83.3%) |
| 4年生 (70名中1名)  | 69.5% (60.0%) |
| 全学年(166名中16名) | 70.6% (81.3%) |

\* ( )内は、外国籍一般生の人数及び満足度の平均値

1年生が一番満足度が高くなっており、2年生でやや落ち込んでいるが、3、4年生は大差がない。外国籍一般生の満足度平均値は、2年生で特に高く、総合すると外国人学生全体より約10%高くなっている。

大学生生活の満足度が、全学年ではどのような分布を示すのか図3に示す。

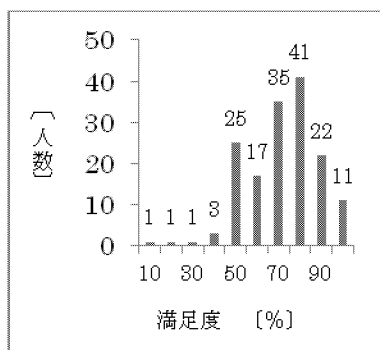


図3 大学生生活の満足度 (全学年)

表19 大学生生活満足度との相関

| 質問項目          | 係数(r) |
|---------------|-------|
| 教員との関係満足度     | 0.70  |
| 職員との関係満足度     | 0.62  |
| 大学授業満足度       | 0.60  |
| 日本語授業満足度      | 0.48  |
| 所属クラブ・サークル満足度 | 0.38  |
| 日本語授業理解度      | 0.37  |
| 日本語能力満足度      | 0.21  |

大学生生活の満足度は、ごく少数を除く学生が50%以上の数値を答えており、そのうち80%前後であると答えた学生が一番多くなっている。

満足度について尋ねた質問項目について、大学生生活満足度との相関係数を調べ、数値の高い順に並べたものが表19である。これによると、自身の日本語能力満足度は、大学生生活満足度との相関はほとんどないに等しく、日本語授業理解度、所属クラブ・サークル満足度はある程度の相関があると考えてよいだろう。日本語の授業に満足することは、大学生生活の満足に結びつきやすい傾向はあるが、大学生生活の満足度を左右すると考えられるのは、大学の授業満足度、教職員との関係満足度である。

## 7) 大学に望むこと

「どのようなことを望みますか」という設問に対して、82件の記述が見られた。記述の内容は、「自分自身の抱負・感想など」と「大学への要望」に大別される。その内訳を、表20に示す。

「大学に望むこと」を書く項目に、自分自身の抱負・感想を書いた記述は26件、そのうち10件が1年生のものである。

「知識・経験を積みたい」というのは、「日本語・外国語がうまくなりたい」「専門知識を得たい」「異文化体験をして国際的視野を身につけたい」というものである。「感想」としては、「楽しい」という意見がある一方、「普通」というものもある。1年生のうち3名、

表 20 外国人の学生として、大学に望むこと

| 自分自身の抱負・感想など |       | 大学への要望      |       |
|--------------|-------|-------------|-------|
| 記述内容         | 件数    | 記述内容        | 件数    |
| 知識・経験を積みたい   | 10(2) | 「要望なし」      | 19(2) |
| 感想           | 6     | 外国人としての配慮   | 12    |
| もっと友人がほしい    | 5     | 大学行事・活動について | 9(1)  |
| その他の抱負・希望    | 5     | 学費について      | 5     |
|              |       | 就職について      | 4     |
|              |       | その他         | 7(1)  |
| 合計           | 26(2) | 合計          | 56(4) |

\* ( )内は、外国籍一般生の記述件数

編入学した3、4年生2名が「もっと友人がほしい」という記述をしているが、これは「大学への要望」のうち、「大学行事・活動について」の「大学内のイベント・活動を増やしてほしい」「先生や他の学生と交流する機会がほしい」という要望と裏表一体の関係にあると考えられる。「その他の抱負・希望」には、「順調に卒業したい」「楽しみたい」というものがあつた。

「大学への要望」で、「要望なし」の記述に続いて多いのは、「外国人としての配慮」を望む声である。「留学生を重視してほしい」「外国人だけの情報を得るところがほしい」「外国人留学生が増え、外国人に便利な対策が消えてしまった」「国によって区別しないで、機会を平等に与えてほしい」という声もあつた。「学費について」は、学費をもっと安くしてほしいという声である。「就職について」は、「就職について情報提供してほしい」「もっと就職のサポートをしてほしい」というものである。

「大学への要望」で、「その他」に入れたのは、「人間関係をもっと知りたい」「もっときれいにしてほしい」「食堂のご飯をもっとおいしくしてほしい」というものなどである。

外国籍一般生の記述総数は6件あり、記述率としては外国人学生全体と大差はないが、「日本語・外国語を身につけたい」「記述なし」以外は、「学内のイベントを増やしてほしい」「タバコのルールを決めてほしい」というものである。

#### 4. まとめと今後の課題

外国人学生が、予想以上に自らの日本語能力に高評価を下していたのは喜ばしいことである。それは、外国人学生たちが、大学生活を順調に送っているということの証だからである。日本語能力の自己評価において、「できない」「あまりできない」という回答に注目し、敬語を使つての会話、聞き取りにおける政治・経済ニュースの要点理解、そして読解に対する苦手意識を克服するような学習支援が行われるべきである。

また、外国籍一般生が困難を感じることの多いものは、ほとんどが留学生対象の日本語

科目での支援が可能であるが、例えば、講義のノートとり、専門書・論説文等を読むことなどは、専門科目や、ゼミナール形式での少人数クラスと連携して指導していくのが理想的であろう。長期に渡って日本に滞在し、日本の学校に通いながらもこれらに困難を感じている状態を改善するには、一人一人に丁寧に対応する必要がある。外国人学生一般に、日本語学習に使用できる機器の保有率が高いので、そうしたものを利用して自律的に学ぶための支援について模索することも必要であろう。

大学の授業に対する満足度は、教職員との関係に対する満足度が続いて、大学生生活の満足度と相関が高い。その授業を分かりやすくしていると外国人学生が感じるもの、分かりにくくしていると感じるものが明らかになった。外国人学生にも理解しやすい話し方、活動方法、教材の選択が望まれる。

外国人学生は、大学に様々なことを望んでいる。しかし、それは、本調査において十分に表出されたかどうかは疑問である。紙面調査であること、記名調査であることなどの制約がある。外国人として大学に望むことを尋ねた設問において、「実現しないから言いたくない！」と記入した学生がいる。そのような気持ちもあるだろう。特に、外国籍一般生の場合、大学の授業、教職員との関係、大学への要望などの記述に積極的ではない傾向が見られた。外国人学生の要望に応える気持ちがあることを示しながら、外国人学生のニーズと実現可能な方策を探っていきたい。

本稿では、調査結果のうち、大学での授業以外の活動について、大学以外の日常生活における活動及び人間関係などについては触れることができなかった。また、本稿は現在の外国人学生の日本語環境に対する意識の報告に留まり、2002年度調査からの変化について言及することはできなかった。稿を改め、外国人学生の日本語環境の実態と、またその意識について明らかにしていきたい。

注1) 本稿における「外国人学生」とは、日本語を母語としない学生を指し、それには、留学生、外国籍一般生が含まれるものとする。

2) 本調査の回答者数は166名であったが、1年生、4年生の各1名、計2名が調査日を異にして1人で2枚のアンケート調査用紙を提出した。どちらの学生も、1回目の調査日と2回目の調査日は1~2週間ほどの間があり、基本情報（日本滞在期間、日本語学習歴等）以外の質問項目は回答が異なる部分もあったため、168名分のアンケート調査用紙を集計することにした。ただし、日本滞在期間、日本語学習歴については166名を総数としてある。

## 【参考文献】

東北大学(2013)「東北大学留学生学生生活調査まとめ」

<http://www.fgl.tohoku.ac.jp/downloads/symposium/survey2012.pdf>

日本学生支援機構(2012)「平成23年度 私費外国人留学生生活実態調査」

<http://www.jasso.go.jp/scholarship/ryujchosa23.html>

舟橋宏代(2002)「2002年度鈴鹿国際大学留学生日本語環境実態調査」『鈴鹿国際大学紀要 CAMPANA』No.9、鈴鹿国際大学

付録（質問用紙・報告部分のみ抜粋）

## 2013年度 鈴鹿国際大学外国人学生日本語環境実態調査

学番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 実施日 2013年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

☆外国人学生の日本語学習環境に関して調査し、教学に役立てたいと思います。質問に教えてください。

1. 過去の滞在を含めて、日本にどのくらい住んでいますか。 \_\_\_\_年 \_\_\_\_か月
2. 学習期間（学校で日本語の授業を受けた期間）は全体でどのくらいですか。 \_\_\_\_年 \_\_\_\_か月
3. あなたの日本語能力について教えてください。
- 3.1. あなたの現在の日本語能力について、自分で評価して、該当する評価に○をつけてください。  
（4：できる、3：難しいがなんとかできる、2：あまりできない、1：できない）

[話す力]

- |                               |   |   |   |   |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| 1) 自分の意見や考えを論理的に述べる。          | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 敬語を使いながら目上の人と雑談をする。        | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 友人や知人と世間話や雑談をする。           | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) わからないことについて聞いたり、問い合わせたりする。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

[書く力]

- |                               |   |   |   |   |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| 5) レポートや論文を書く。                | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 友人に日常の用件を伝えるメールを書く。        | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) 体験したことや、その感想について簡単にまとめて書く。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) 講義のノートをとる。                 | 4 | 3 | 2 | 1 |

[聞く力]

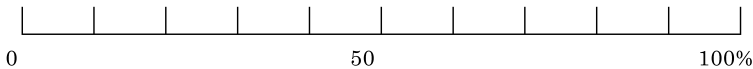
- |                       |   |   |   |   |
|-----------------------|---|---|---|---|
| 9) 大学の講義等を聞いて内容を理解する。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-----------------------|---|---|---|---|

- 10) 政治や経済などのニュースを聞いて要点を理解する。 4 3 2 1  
 11) 身近で日常的な話題についての会話を聞いて理解する。 4 3 2 1  
 12) 映画やドラマなどを見て、ストーリーを理解する。 4 3 2 1

[読む力]

- 13) 辞書等を使わずに、専門書や論説文などを読み、理解する。 4 3 2 1  
 14) 辞書等を使わずに、興味のある話題についての新聞記事や雑誌などを読み、理解する。  
 4 3 2 1  
 15) 辞書等を使わずに、小説や漫画などを読み、理解する。 4 3 2 1  
 16) 辞書等を使わずに、役所や大学の書類、説明書などを読み、理解する。  
 4 3 2 1

3.2. 現在の日本語能力に対する満足度はどのくらいですか。



4. 大学の日本語の授業について教えてください。大学の日本語の授業を受けたことがなくて、設  
 間に答えられない場合は、番号に×をつけてください。

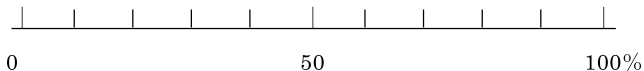
4.1. 日本語の予習・復習をする時間は一日平均どのくらいありますか。 \_\_\_\_\_ 時間  
 分くらい

4.2. 日本語学習に関連するもので、あなたが持っているもの、日本語の勉強に利用しているもの  
 に○をつけてください。(複数回答可)

・学習に関するツール名 (それぞれに、「持っている」「使っている」欄を設定)

- ①スマートフォン、I Phone 等      ②タブレット端末、I Pad 等  
 ③辞書 (製本されたもの)      ④電子辞書  
 ⑤ テレビ      ⑥DVD レコーダー      ⑦ラジカセやラジオ  
 ⑧MP3、IC レコーダー等      ⑨パソコン  
 ⑩デジタルカメラ      ⑪新聞      ⑫その他 (記述欄設定)

4.3. 大学の日本語の授業はどのくらい理解できますか。該当する%の値にVをつけてください。



4.4. 大学の日本語の授業に対する満足度はどのくらいですか。



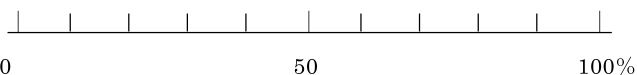
4.5. 大学の日本語の授業で学びたいこと、または学びたかったのにできなかったことがあれば教  
 えてください。

4.6. 大学の日本語の授業について何か意見があれば書いてください。

5. 大学生活について教えてください。

5.1. 日本語以外で、一番わかりやすい授業について考えてみてください。

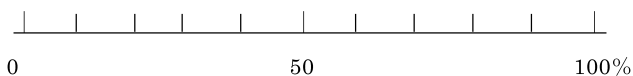
その授業の内容はどのくらいわかりますか。



その授業がわかりやすい理由は何だと思えますか。自由に書いてください。

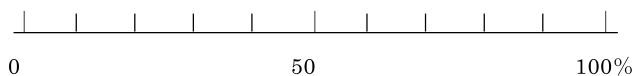
5.2. 日本語以外で一番わかりにくい授業について考えてみてください。

その授業の内容はどのくらいわかりますか。

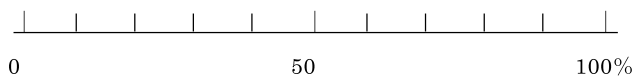


その授業がわかりにくい理由は何だと思えますか。自由に書いてください。

全体的に、日本語以外の授業をどのくらい理解できると思えますか。

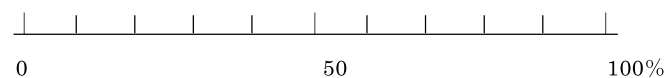


5.3. 日本語以外の大学の授業に対する満足度はどのくらいですか。



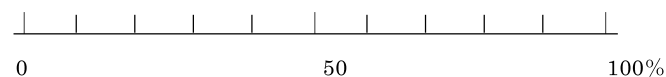
5.4. 日本語以外の大学の授業に対する意見などがあれば自由に書いてください

5.5. 大学の教員（授業を担当する先生）との関係にはどのくらい満足していますか。



5.6. 大学の教員との関係について、何か意見があれば書いてください。

5.7. 大学の職員（事務を担当する先生）との関係にはどのくらい満足していますか。

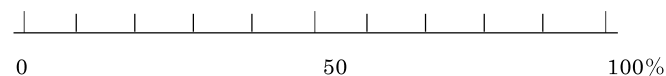


5.8. 大学の職員との関係について、何か意見があれば書いてください。

(中略)

10. ふたたび、大学生活について

10.1. 今の大学生活にどのくらい満足していますか。



10.2. 外国人の学生として、大学にどのようなことを望みますか。

ありがとうございました。